

○伊藤きよ子* 日下部信幸**

(*東海学園女短大 **愛知教育大)

目的 ストライプ柄のワンピースを作製し、ストライプの幅や傾斜角度、形を変化させたときのイメージの差について検討した。また、第2報¹⁾で報告した平面的試料のイメージと、今回の立体的試料のイメージに差異がみられるか検討した。

方法 ①ストライプは黒と白の2色配色とし、ストライプ幅を5、10、20、40mmの4段階に設定した。②たてストライプを傾斜角度0度として、30、45、60、90度(よこストライプ)の5段階の傾斜角度を設定し、計20種類のワンピースを作製し試料とした。各試料のイメージをたてストライプはSD法により求め、その他はたてストライプの試料を比較試料として、それとの比較により求めた。評価は18の対語による5段階評価とした。③傾斜角度30、45、60度の山形および谷形のストライプ柄のワンピースを計24種類作製し、同一の傾斜角度をもつ②の試料を比較試料としてイメージを測定した。④結果は分散分析法等を用いて分析し、平面的試料のイメージとの差についても検討した。

結果 ①40mm幅のたてストライプは、「活動的な、強い、はっきりした、大胆な、個性的な、派手な」などのイメージが強く、5mm幅は、その逆のイメージと評価された。②ストライプを傾斜させると、どの幅においても、たてストライプより「肩幅が広く、下半身が太く、胸が大きく」みえると評価された。③山形および谷形ストライプは、比較試料より「個性的な、立体的な、活動的な、着てみたくない」と評価された。④平面的試料のイメージとの有意差は「丈が長く見える」「快い」の用語において多く認められた。

1) 伊藤、日下部：日本家政学会第49回大会研究発表要旨集、p.207(1997)